

Third-Party Opinion 第三者意見



ピーター D. ピーダーセン氏

株式会社イースクエア共同創業者
リーダーシップ・アカデミー TACL 代表
一般社団法人 NELIS—次世代リーダーのグローバル・ネットワーク共同代表

1967年デンマーク生まれ。コペンハーゲン大学文化人類学部卒業。1984年から日本での活動を開始。2000年に株式会社イースクエアを設立。2002年にはLOHAS(健康と環境を志向するライフスタイル)という考えを日本に紹介し、環境成長経済、カーボン・ニュートラルやカーボン・オフセット、本来農業など、未来を創るさまざまな新しいキーワードを提案している。2011年に株式会社イースクエア代表取締役社長を退任し、共同創業者に就任。2014年からは株式会社トランスエージェント内リーダーシップ・アカデミー TACL 代表に就任。2015年からは一般社団法人 NELIS—次世代リーダーのグローバル・ネットワークの共同代表に就任。

丸井グループの「共創サステナビリティレポート2017」は、読んでいて楽しい・面白いと思える数少ないサステナビリティレポートです。企業の魂・意志・志が通っている報告書として大いに好感を持つことができました。私にとっては、丸井グループという会社の「再発見」につながるレポートでもありました。本来、サステナビリティレポートはこのように企業の「社格」を表現すべき媒体だと思いますが、そのことに成功している報告書は決して多くありません。

本レポートは、特に次の5点を高く評価したいと思います。

- デザイン性がよく、読みやすいレポートです。
- テーマ設定が明確(Inclusion)で、全体を貫くストーリー性を感じられます。
- 人間(経営者、社員、外部ステークホルダーなど)が頻繁に登場する温かみのある誌面になっています。
- 来年度入社する内定者も紹介し、「これから働く会社への期待や自分が目指したい仕事のスタイル」にも触れていることが、非常に興味深いところの一つです。
- ワーキング・インクルージョンの章において、多様性と広い意味での健康経営が革新につながるという視点がとても新鮮です。さらに、多様性のとらえ方そのものも多様であり、大変よいと思います。

改善点があるとすれば、それは「レポート」というより「取組みのさらなる革新」のところなのかもしれません。エコロジカル・インクルージョンやリデュースへの取組みは、方向性としては正しいと思いますが、成果においてはまだまだできることがあるのではないのでしょうか。健全な自然環境の維持は、「将来世代のしあわせ」を担保するために欠かせないものであり、この分野においても、今後丸井グループらしい斬新な取組みを期待したいと思います。フィンテック事業(クレジットカード事業)にかかわる「ネガティブ情報」として、延滞者への何等かの回収業務があるはずですが。このような対応をどのようにすすめておられるのか、コンプライアンスや延滞者に対する人間尊重と、必要不可欠な債権回収といったジレンマをどのように乗り越えておられるのかを、唯一「もうちょっと知りたいなあ」と感じました。